

## 第2回 三木市文化振興計画策定委員会議事録

### 1 開会日程

- (1) 開 会 令和3年10月7日(木) 午後6時30分
- (2) 閉 会 令和3年10月7日(木) 午後8時30分

### 2 場 所 市役所 5階中会議室

### 3 委員委嘱配布

### 4 委員長及び副委員長選出

### 5 議 題

#### (1) 協議事項

- ア 三木市文化振興計画(素案)について
- イ その他

### 6 出 席 者

- (1) 委 員 山下 泰生、西田 博之、宮田 逸民、米澤 修二、大林 繁教、石田 満美  
塩山 重夫、福本 孝昭、藤田 均、岩崎 修二、稲葉 千佳、松下 朋央
- (2) 事務局 本岡 忠明教育総務部長、金井 善純文化・スポーツ課長、  
西馬 房子文化・スポーツ課副課長、金松 誠係長、藤原良成、畠中剛

### 7 公開・非公開の別 公 開

### 8 傍聴人の数 0 人

\*\*\*\*\*

### 1 開 会

### 2 委嘱状配布

### 3 委員長及び副委員長選出

### 4 協議事項

- ア 三木市文化振興計画(素案)について  
(事務局から報告)

[委員]

文化振興意識調査では、高齢者に偏った回答になったと分析しているが、年齢補整をした上で計画に反映させる必要があるのではないか。

[事務局]

文化振興意識調査は、無作為に抽出した1,000名の方に発送し、約400名から回答があった。委員の指摘の通り高齢者に偏った回答となっており、その点を計画に加筆した上で、結果については確定させたいと考えている。

[委員]

調査では、回答者自身の年齢を問う設問はあったのか。もし、設問がなければ仕方はないが、あれば年齢補整が可能ではないか。

[事務局]

回答者の年代別構成比は、文化振興意識調査の「12 ご自身について」に記載しているが、年代別の回答を改めて分析する必要があるということか。

[委員長]

データ補整を施した上で、ある固まったデータから無作為にランキングを作成し、係数を合わせて同じ見方をすれば年代別の結果が出てくるのではないかとというのが委員の指摘だと思う。三木市の人口構成に合致した結果と考えられる一方で、文化振興をテーマにどの年代に焦点を合わせていくかを考えると現状の偏ったデータでは困難だと思うが、時間的な余地は残っているのか。

[事務局]

今委員会内で可能な限り回答したいと思う。

[委員]

近隣市町との文化行事を通じた連携が必要ではないか。また、市内にある文化団体については、網羅的な実態調査を行った上で近隣市町では作成している文化団体を紹介する冊子を三木市でも作成してはどうか。

[委員]

若年層に関しては、進学や就職により三木を離れても、ふるさとの意識を根付かせられるよう、初等教育から三木の文化を伝えていくべきではないか。

[委員]

市史編さん事業とも連携し、三木の文化を伝えていってはどうか。また、計画期間内のできる施策を具体的に挙げていくのはどうか。

[事務局]

現状でも把握している文化団体に関しては、ホームページ等での情報発信は可能と考えているが、実態調査は助言をいただきながら進めたいと思う。

ふるさと学習については、歴史資料館の学芸員による出前講座の開催、学校からの要望を受けた来館学習として実施していたが、コロナ禍により実施が困難な状況である。ただ、事務局としては、毎月開催される校園長会等を通じて企画展案内も含めた情報発信や、市史編さん室などの関係所管課との連携も図っていきたいと考えている。

具体的な施策を本計画に盛り込むことに関しては、予算の関係もあることから、先を見据えた意見をいただければありがたい。

[委員]

菊花展に関して、1鉢活動として生徒が菊を栽培していた志染中学校が閉校し、今は自由が丘東小学校の方に協力いただいているが、指導者も高齢で若い方への文化継承の必要性を感じる。また、植樹・植栽に関し三木市は近隣市町と比較しても意識が低いように思う。やはり、市民が自分のところを綺麗にしようという意識を持つことは、文化芸術にも関わってくるものだと思うので、そういった面にも目を向けていただければと思う。

[事務局]

菊花展に関しては学校での栽培の促進、さつき展では市内の学校で持ち回りで一昨年まで年に数校ずつ小学生に苗木の植樹をお願いするなど、三木の特産の花を奨励・推進する事業も行ってきたが、さつき展に関しては2年連続で開催できない状態となり、菊花展も幅広い年代の参加がないのが実情である。

また、街路の植樹・植栽については、関係所管課に意見を伝えたいと思う。

[委員]

計画は、文化芸術活動を通して「誇りを持って暮らせるまち 三木」を目指すという観点で考えていきたいと思うが、委員の意見を少しでも反映していただければと思う。

[委員]

市内には文化連盟や美術協会といった文化団体はあるが、相互の連携がとられておらず、協働して文化行事に取り組むことが難しい状況にあると感じている。ただ、現状では会合も持たれておらず、まずは機会を創出することが先決ではないかと思う。

[事務局]

意見交換会を開くことも一案として考えられる。

あと、文化振興意識調査の年代別構成については、10～20代が33人、30代が31人、40代が46人、50代が64人、60～70代が189人、80歳以上が41人、無記入が9人という結果である。

[委員]

三木市の年代別人口比率のデータがあるかと思うので、計画に追記するのが良いのではないかと思う。ただ、回答者の年代別構成を聞き、広報誌が1番の情報入手先となっている今回の調査結果への疑念が晴れたように思う。

[事務局]

年代構成を補整した上での分析は、時間的な問題もあるが、次回に回答できればと思っている。

[委員長]

文化振興意識調査を再度分析するのは、コロナ禍でもあり日程的には厳しいかもしれないが、今後の文化振興に資するよう、できるだけデータを活用していただきたい。

[事務局]

本日いただいた意見にできる限り沿った素案を作成し、次回開催前には送付する予定であるので、それに対する意見等も事前に頂戴できれば、加筆修正の上、第3回策定委員会を迎えたいと思う。

\*\*\*\*\*